

学校だより

学校評価特集号

名古屋市立稲生小学校

いきいきと
のびのびと
うつくしく

ホームページはこちら

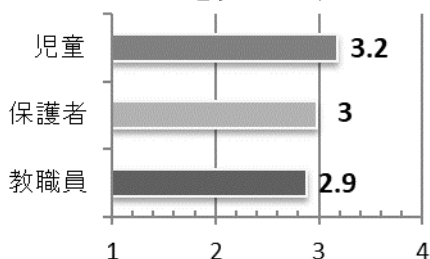


10月に行いました学校評価(前期)のアンケート集計結果の内容をまとめました。

今後も、家庭や地域の方との連携をさらに深めるとともに、児童がますます健全に成長できることを目指して、支援していきたいと思っておりますので、ご協力をお願いします。

表は、A『はい』＝4点、B『どちらかといえば「はい」』＝3点、C『どちらかといえば「いいえ」』＝2点、D『いいえ』＝1点で換算し、平均値を示しました。80%がBと評価した場合は2.9点以上、80%がAと評価した場合は3.6点以上となります。なお、()内は、保護者の方に対する設問です。

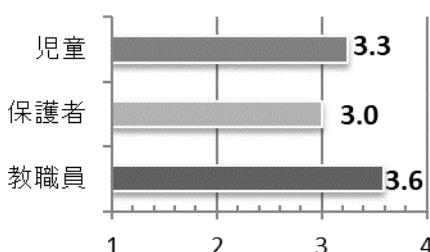
1 子どもが学習課題を決めて解決するような授業の工夫を図ります。(お子様は、自分で学びたいことを見つけ、進んで取り組もうとすることができますか。)



今年度からは新学習指導要領のもと、子どもたちが「主体的・対話的で深い学び」を進める授業を目指しています。保健の授業では「けがの防止について考えよう」という課題を設定し、身の回りで起きそうなけがを予想し、未然に防ぐ方法を考えました。

コロナ禍の影響で、新たな生活様式に合わせた学び方の工夫が更に必要ですが、子どもたちが学びたいことを見つけ、進んで取り組むことができる授業を実践していきたいと思っております。

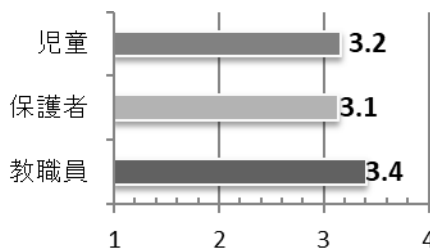
2 練習を繰り返し、漢字を書く力や計算力の定着を図ります。(お子様は、漢字や計算練習に進んで取り組むことができますか。)



新たな生活様式に合わせた教育活動において、一人一人が漢字や計算練習に取り組む時間が増えたことで、おおむね満足できる結果となりました。

しかし、まだ基礎的な学力が十分に身に付いていない児童もいます。今後、児童一人一台のタブレットが配布された際には、個々の力に合わせて学習を進められる「個別最適化」の学びを研究しながら、引き続き基礎的な学力の定着を図りたいと思っております。

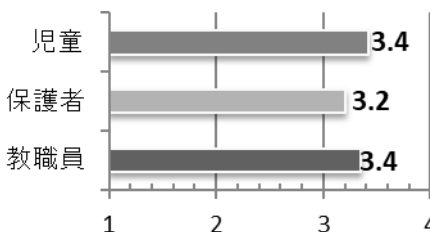
3 子どもが進んで思いや考えを伝えられるような環境づくりを大切にします。(お子様は、進んで自分の思いや考えを伝えることができますか。)



対話的な学びを進める上で、自分の思いや意見を伝える力はとても大切です。そのためには、まず自分の思いや意見をもたせるための工夫が必要です。自分たちの食卓に登場するマグロがどこで水揚げされ、どうやってここまで運ばれてくるのか、といった課題設定を身近なものにするだけでも、子どもが考えをもちやすくなり、「伝えたい」という思いを高めさせることができます。

今後も、子どもたちが進んで自分の思いや考えを伝えられる環境を整えていきたいと思っております。

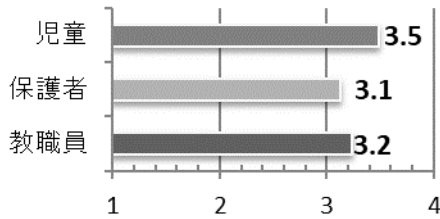
4 相手の気持ちを考えて、話したり行動したりする子どもを育てます。(お子様は、相手の気持ちを考えて、話したり行動したりしていますか。)



保護者の方から、「引っ込み思案だから友達とうまくコミュニケーションが取れるだろうか」といったご意見をいただいた一方で、今回のINGキャンペーンでは「教室で友達が寂しそうにしていたら声を掛ける」といった子どもたちの相手を思いやった行動宣言も多く見受けられました。児童のポイントが高いのも、その気持ちの表れだと思います。

優しい気持ちをもった子どもたちの行動を称揚し、道徳教育を推進していくことで、今後も相手を思いやる気持ちを高めていきたいと思っております。

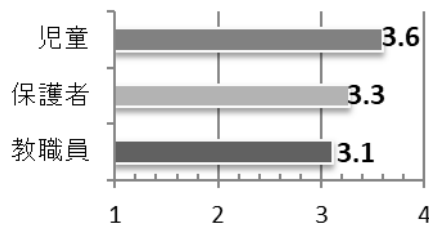
5 進んで挨拶する子どもを育てます。(お子様は、進んで挨拶ができますか。)



子どもたちから募集して決定した挨拶ポスターを看板にして、昨年度末から南門と北東門に掲示しています。子どもたちも毎朝登校するときに目にしていて、挨拶への意識を高めることに一役を担っています。廊下ですれ違うときは、「おはようございます」や「こんにちは」といった挨拶ができる子どもが高学年を中心に増えてきたように感じます。

今後も引き続き「挨拶があふれる学校」を目指し、地域と一体となって挨拶運動を広げていきたいと思っています。

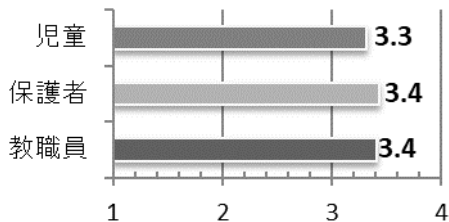
6 授業や休憩時間などの活動を通して、運動に親しむ子どもを育てます。(お子様は、運動に親しんでいますか。)



保護者の方から、校舎のリニューアル工事によって運動場の利用が制限されたことによる運動不足を心配するご意見が多く寄せられています。ボール運動やリレーなど、これまで通り行えない学習もありますが、学級で長縄の練習に取り組むなど、できる限り子どもの運動量が確保できるように努めているところです。

今後も、感染症予防に努めながら子どもたちが運動に親しめるように、運動場の利用方法や体育の学習方法を見直していきたいと思っています。

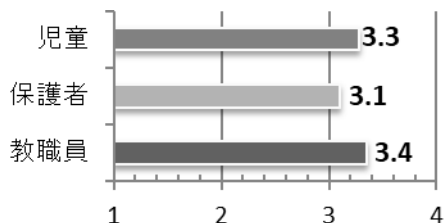
7 規則正しい生活の大切さを指導し、健康的な生活をする子どもを育てます。(お子様は、毎日朝食をきちんと食べ、早寝早起きをしていますか。)



学校休校中にご家庭で生活リズムを崩すことなく、規則正しい生活を送っていただけたことも高い評価につながっていると思われます。また、子どもたちにも、健康観察カードによる毎日の検温や健康チェックにより、これまでになく健康な体づくりへの意識が高まっていると感じます。

今後も、給食だよりや保健だより等を通じて、健康への意識を高めていきたいと思っています。

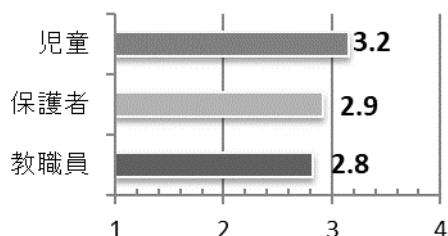
8 日頃の声掛けや教育相談週間を通して、児童理解に取り組めます。(お子様は、困りごとがあったとき、教師に相談することができますか。)



保護者の方から、「悩みや言いたいことがあっても、中には直接先生に伝えることができない子がいるかもしれない」というご意見をいただきました。本校では悩みを抱える子どもからのメッセージを受け取るためのポストを保健室前の廊下に設置しています。メッセージには養護教諭がスクールカウンセラーと連携して、適切に関わるようにしていますので、ご安心ください。

今後も、教育相談やこころのアンケートを生かしながら、子どもたちの悩みに寄り添って支えていきたいと思っています。

9 教科書を活用した家庭学習の方法を指導し、計画的に学習する態度を育てます。(お子様は、計画的に家庭学習を行っていますか。)



保護者の方から、「自主学習ができるリスト作成などをして、自分から進んで取り組める形もほしい」というご意見をいただきました。子どもたちは今、主体的に学ぶことが求められています。「漢字を繰り返し書き写す」や「計算をたくさん行う」などといった学習方法は、子どもたちに基礎的な知識や技能を身に付けさせる上で大切であることは変わりませんが、生涯学習を視野に、課題を自分で発見し、解決する習慣を低学年のうちから身に付けさせることも重要なことです。

今後は、子どもたちが課題を見つけ、学習していけるように工夫することで、学年の発達段階に応じた家庭学習の在り方を追究していきたいと思っています。

今回ご紹介したご意見のほかにも、数多くの学校に対するご意見をいただきました。今後も、地域、家庭と連携を図りながら、子どもたちの健やかな成長のため、学校として何ができるのかを考えていきたいと思っています。